

今井 正先生を悼む

—Clinical and Experimental Nephrology の礎を築かれた先生に感謝を捧げる—

日本腎臓学会編集委員会委員長

木村健二郎

今井正先生が2012年9月14日ご逝去されました(享年74歳)。先生のご略歴は佐々木成先生がお書きになっていますので割愛しますが、先生は1994年4月から2002年3月までの8年間、日本腎臓学会の編集委員長として、学会誌の発展に尽力されました。特に、英文誌であるClinical and Experimental Nephrology (CEN)の今日の姿の礎を築かれたことは、私たち日本腎臓学会会員にとって忘れてはならないことです。

CENの発刊の経緯は今井先生ご自身が日本腎臓学会誌(2010; 52; 30-33.)に書かれています。1959年に日本腎臓学会が設立されると同時に、学会誌Japanese Journal of Nephrology(最初の1年はJapanese Journal of Renology)が発行されました。最初は日本語の論文のみでしたが、次第に英文の論文の投稿も受け付けるようになり、1983年からは英文の論文のみを集めた号が年2~3号分割発行されるようになりました。1994年に編集委員長を小出輝先生から引き継がれ、雑誌のサイズをB5判からA4判に変更し、さらに引用文献のリスト形式をVancouver方式に統一し、国際的に通用する英文誌発行の準備を進められました。そして、1997年に英文誌Clinical and Experimental Nephrology (CEN)が創刊されました(年間4号)。雑誌名についてもご苦労されたことが書かれています。Japanese Journal という名前ではローカルな雑誌という印象で国際誌としては避けるべきであると考えられ、さらにNephrologyという言葉は日本で作られ国際的に使われるようになった言葉なので、雑誌名をNephrologyにすることを強く望まれました。しかし、当時、発刊準備中の他の雑誌がNephrologyというタイトルを使うことが決まっておりました(この雑誌は現在ではAsian-Pacific Society of Nephrologyの機関誌)、涙をのんでNephrologyという雑誌タイトルを諦められ、現在のタイトルを次善の選択として選ばれた、ということです。しかし、腎臓学に関する基礎研究から臨床研究まで幅広く取り上げるという編集方針に合致したタイトル名でした。

その後、編集委員長は清水不二雄先生に引き継がれ、さらに木村玄次郎先生に引き継がれていきました。投稿数は順調に伸び、海外からの投稿も徐々に増えてきました。その間の編集委員長、編集委員会および学会員の悲願はCENに対するインパクトファクター(IF)を取得するということでした。IFがつくということは、CENが国際誌として認知されたことを意味します。まず、Thomson Reuters社がCENを2008年からScience Citation Index Expanded(SCIE)とCurrent Contents/Clinical Medicineに収載することを決定しました。これにより、2008年と2009年の2年間にCENに掲載された論文が2010年の1年間にSCIEに収載されている雑誌にどのくらい引用されるかでIFが決まることになりました。2011年5月にはついにIFが発表されました。CENの最初のIFは1.460でした。2011年11月4日日本腎臓学会編集委員会として祝賀会を行ったのですが、そのときにはCENの歴代編集委員長の今井正先生、清水不二雄先生、木村玄次郎先生が駆けつけて下さいました。悲願のIFを取得したことで出席者の喜びは大きいものでした。今井正先生が、和やかにCENの創刊当時の苦労話やCENにかけた夢などを熱く語られていたことが印象的でした。まさに、今井先生の研究者としての強い意志と真摯な姿勢を垣間見た思いがしました。

その後、編集委員会では、2012年5月にCENからcase reportを独立させてCEN Case reports誌を発刊しました。CEN自体の国際性をさらに高め、より高いIFを取得することも目的の一つでした。IFが高くなれば、より良質な論文が世界から投稿されCEN自体の質も上がり、それがひいては日本腎臓学会の国際化につながることを期待されます。しかし、2012年に発表されたIFは1.369とやや低下しました。実は、引用論文数は80件ほど増えましたが、掲載論文数も同時に増えた結果でした。現在、CENへの投稿はさらに順調に伸び、海外からの投稿も飛躍的に伸びています(2012年は349件でそのうち海外からの投稿は157件)。採択率も現在では50%を切っています。このように、今井先生が初代の編集長として、日本腎臓学会の国際性を高め、さらに日本の独自性・特性も示すという夢と希望を持って創刊されたCENは順調に発展しています。CENは今では間違いなく国際雑誌として認知され、日本腎臓学会会員が世界に向けて情報発信する場を提供し、また、海外の腎臓専門医との情報交換の場ともなっています。私たちは、今井先生のCENにかけた夢と情熱を引き継ぎ、さらに発展させ、そのことにより、日本腎臓学会そのものの国際性を高めていかなければなりません。

今井先生に日本腎臓学会編集委員長として感謝の意を表し、追悼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。合掌